地震・津波対策アクションプログラム2013［津波対策編］

津波対策の三本柱は「防ぐ」「備える」「逃げる」

今年6月に発表された地震・津波対策アクションプログラム2013は、被害を最小限にする「減災」を理念に掲げる。では、減災を達成するために静岡県はどんな施策を打ち出しているのか。津波に対する具体的なプログラムを解説する。

3本柱のベストミックス

地震・津波対策アクションプログラム2013において、静岡県が重点施策の一つとして掲げているのは津波対策だ。しかし、津波対策には施設、場所、避難など、さまざまな要素が絡み合うため、一様に施策を推進するのは容易ではない。そこで静岡県は「津波を防ぐ」「津波に備える」「津波から逃げる」という3つの視点から具体的な施策を打ち出している。

「防ぐ」では防潮堤や水門などの津波防御施設の嵩上げや、津波が施設を乗り越えた場合にも粘り強く減災効果を発揮する構造への改良などの整備を進める。更に既存の防災林、道路の嵩上げ・補強等による更なる安全度の向上策「静岡モデル」の整備を推進していく。

「備える」では命山（人工の高台）や避難タワーの建設を促進し、津波避難施設の空白域の解消を目指している。

「逃げる」では「地震が発生したらすぐに逃げる」という意識を県民に徹底することを目指している。過去には「津波警報が出てもほとんどの人が避難所や避難地に行かなかった」という結果も出ているため、静岡県は継続的に訓練や啓発を行い、世代を超えた「逃げる」行為の実現に力を注ぐ。

防潮堤や水門、避難場所の整備、避難行動の啓発などと共に、避難経路の看板設置も促進し、避難施設空白域の解消と避難時間の短縮のベストミックスを作り出すことが静岡県の考え方だ。

即座の判断は日々の準備から

南海トラフで大地震が発生した場合、静岡県の沿岸に津波が到達するまでの時間は早くて数分と言われている。行動を躊躇したり、身支度を整える時間は一切なく、訓練していなければ咄嗟には対応できない。静岡県では県民に分かりやすく説明するなど啓発に努めながら、津波対策の三本柱「防ぐ」「備える」「逃げる」を進め、人的被害を最小限に抑えるために最大限の努力を続けていく構えだ。即座の判断は日々の準備から生まれる。

◎重点施策：新たな津波被害想定への対策

1 津波を防ぐ

防潮堤や水門などの
津波防御施設の整備を進め、
一人でも多くの県民の命を
守ることを目指す。

アクション

津波対策施設の整備

整備が必要な津波対策施設
（海岸117.1km）の整備率
数値目標 60%（H34年度末）

2 津波に備える

津波避難場所の
空白地域の解消を目指す。

アクション

津波避難施設空白地域の解消

津波避難施設の要避難者カバー率
数値目標 100%（H34年度末）

3 津波から逃げる

津波浸水域にいる全員が
迅速に適切な避難行動を
取ることを目指す。

アクション

津波避難訓練の充実・強化

津波避難訓練の実施率
数値目標 100%（H34年度末）